



# きずな

No. 173  
2025.12.1

日本カトリック海外宣教者を支援する会

## 巻頭言

### マザー・テレサに学ぶ宣教者的心

イエズス会 司祭 片 柳 弘 史

教皇フランシスコは、使徒的勧告『福音の喜び』の中で、「福音の喜びは、イエスに出会う人々の心と生活全体を満たします」と語りかけ、「キリストとの人格的な出会い」から生まれる喜びを新たにすることこそ、現代の教会に最も必要なことだと説いた。キリストと出会った喜びを忘れ、「復活のない四旬節を生きているような信者」であるなら、福音を人々に伝えることなどできないからだ。

わたしは昔、インドのコルカタにある「死を待つ人の家」というマザー・テレサの施設で働いていたことがあり、そのことがきっかけとなって司祭への道を志した。「神の愛の宣教者会」という修道会を設立し、世界中の貧しい人々のもとへ神の愛を届けることに生涯を捧げたマザー・テレサだが、彼女も、会のシスターたちに、福音宣教のために何より必要なのは、「キリストを愛する喜び」だと言っていた。日々の祈りの中で、頭で想像したのではない「本当に生きているイエス」との出会いを体験し、イエスから愛される喜び、自分をこれほどまでに愛してくださるイエスを愛さずにはいられない喜びで心が満たされていること、それこそが宣教者の第一の条件だというのだ。「イエスを愛する喜びを、いつも心に持っていなさい。そして、

#### ♥♥もくじ♥♥

巻頭言	1
第98回運営委員会議事録	2
宣教者からのお便り	3
ECHO	11
連載「海外宣教」	14
新しい支援者・事務局より	16



● その喜びをあなたが出会うすべての人と分かち合いなさい」とマザーはよく話していたが、それこそマザーにとっての福音宣教そのものだったと言つていいだろう。

● そのことが最もよく表れているのが、マザーが帰天する3年ほど前に、会のシスターたちに宛てて書いた「靈的な遺言」とも呼ぶべき手紙「バナレス・レター」だ。マザーがいなくなつた後、自分たちはどうやって宣教を続けていけばいいのか書き残してほしいというシスターたちの要望を受けて書かれたこの手紙の冒頭で、マザーは、「あなたたちの中に、まだイエスと本当に出会っていない人がいるのではないかと心配です」と書いた。喜びにあふれる笑顔こそが「神の愛の宣教者」の条件であるのに、シスターの中にときどき、つまらなそうな顔や不機嫌そうな顔をしているのを見かけることがある。マザーは、それを気にかけていたらしい。シスターたちに向かってマザーは、「あなたはイエスが愛情深くあなたを見つめているのを、心の目で見たことがありますか。あなたは、生きているイエスを知っていますか」と問いかける。もし祈りの中でイエスと出会っていないなら、貧しい人の中におられるイエスと出会うこともできず、貧しい人々の中で「渴く」と言っておられるイエスの声を聞くこともできない。それでは、神の愛を人々に伝えることができないというのだ。相手の中にイエスを見つけ出す喜び、愛してやまないイエスに直接奉仕できる喜び、それがあるからこそ、「福音の喜び」を人々と分かち合い、神の愛を人々に届けることができる。マザーは、そう確信していた。

● 司祭、信徒の高齢化や若者の教会離れによって、日本の教会はこれからいつたいどうなるのかという危機感が広がっている。そんな中で「どうやつたら教会に人を集められるか」というような問い合わせが上がることもあるが、残念ながら、小手先の工夫をしたところで、人が集まることはないだろう。わたしたちの心が「福音の喜び」、「イエスを愛する喜び」にあかあかと燃え上がっていてこそ、人々は、その喜びの光、希望の光を目指して集まつてくるのだ。まずは、自分自身がイエスと出会うこと、イエスと出会って喜びに満たされ、救われること。そこから宣教を始めたい。

## □■□ 第98回運営委員会議事録 □■□

日 時：2025年9月13日（土） 13:30～15:00

場 所：フランシスコ修道会 修道院2階教室

出 席：運営委員 11名 欠席 2名

議 事

### I. 「きずな」172号について

編集者から→原稿の集まりは早かった、また事務局訪問があり良かった。

### II. 「きずな」173号について

173号巻頭言：委員が8月末に講演会を行った折、片柳弘史神父（S.J.）に12月の巻頭言

をお願いすることが出来た。

### III. 援助申請

今回申請は…………無し。

### IV. その他

- ・「きずな」172号 業者発送 2,511通 9月2日発送
- ・郵便局から国内大口他47通、海外75通、9月5日発送済、ご寄付切手等により半額になった。今回は雑誌も同封。
- ・海外郵便送付不能の国等には、事務局からメールにて「きずな」172号PDFを送信済。
- ・6月24日浦善孝神父（イエズス会）援助へのご挨拶のため来局。（9月12日援助報告書受領）無事に東ティモールに荷物（黒板、本など）が到着済。一部残金返金。完了。
- ・7月4日前回のブルキナファソSr.黒田小夜子（F.M.M.）宛に援助費送金完了、「受け取り確認」受領済。（Petit Helen学校ソーラーエネルギー装置設置費用）
- ・8月19日（コピー機リース料見直し）で、Xerox⇒リコーへ5年契約で機種交換完了。
- ・会のホームページ更新済。
- ・2026年版のカトリック教会情報ハンドブックに会の広告を掲載予定。
- ・「宣教者のお話を聞く会」について：時期と講師は今のところ東ティモールの中村葉子シスターに了解を得た。2026年2月14日（土）に開催予定。
- ・会のインスタグラム作成を全相姉委員に依頼。
- ・運営委員会終了後、茶話会。皆様の現状のお話合い。

次回の運営委員会は、2025年12月13日12時～



南スーダン

◆ ジュバ ◆

## 活動紹介と報告

イエスのカリタス修道女会 レオウェラ・サグン

Merry Christmas and a Happy New Year !

活動紹介とご報告をさせていただきます。

2011年、南スーダンが独立した年に私たちの会はジュバで活動を開始しました。当初は国

内避難民の支援でしたが、後に医療や教育へと活動を広げました。2016年には東エクアトリア州のケレピ村で幼稚園を開設しましたが、同年7月の政情不安により、シスターたちは村人とともにウガンダの難民キャンプへ避難し、2018年まで避難民として活動を続けました。2019年シスターたちは南スーダンに戻り、ニムレの町に拠点を移し、難民キャンプから110人の子どもたちを連れ帰り、学校に通わせ

ました。2022年にはケレビ村に戻り、「聖ジョセフ・フィン・バキータ小学校」を開設しました。私は2023年からこの小学校に派遣されています。

私の故郷のフィリピンや数年間過ごした日本とは全く違う世界ですが、子どもたちは変わらず明るく活発です。この土地の人々は戦争のため学校に通った人は少なく、仕事に就ける人はわずかで、ほとんどの人は幼い頃から土地を耕すことを学び、家族のために作物を育てています。農業以外では、兵士、車の運転手、市場での物売り、家畜の世話、炭作り、家屋建設や薪にするための木材の収集などの仕事があります。働く母親もわずかにいますが、ほとんどの女性は家のことと子どもの世話をしています。



劇クラブ



女子の侍者

幼稚園児



日々生徒と関わる中で、若者たちが将来国を発展させ、平和について考えるためには教育が必要だと痛感しています。しかし、難民キャンプから戻ってきたばかりの家族や、国連からの配給がないキャンプに残っている家族にとって、教育費を払うことは大きな負担です。しかも南スーダンでは、授業料だけでなく、生徒に朝食と昼食を提供するために3か月分の食料を持参することが求められ、家庭にとって経済的な負担となっています。多くの家族は、子どもの教育を支援することができず、子どもたちは退学せざるを得ないのです。また、家庭の状況から、子どもたちが学業に興味を持てないこともあります。それは経済的な問題に加え、家の責任があるため、勉強に集中できないことが原因です。通学制の子どもたちは、1日に2食しか摂れないこともあります、時には家では夕食がないこともあります。

このように多くの家庭にとって、食料という基本的なニーズが満たされないことが現実的な問題です。家族が食べる物を手に入れるために、母親が他人の畑で短期間、草取りや手入れの仕事をしてトウモロコシの粉をもらうこともあります、十分ではありません。基本的な生活必需品と教育への支援が、現状での主な課題と感じています。

私たちは、若者たちが大きな夢を抱き、より良い国を築けるようにと願って活動しています。また、神を信じ、祈り、努力し、人生がより良くなるという体験を深めるよう同伴しています。日本でも様々な問題があるかと思いますが、皆さまのお祈りと温かいご支援に感謝いたします。

## コンテナ輸送報告書

イエズス会 浦 善 孝



2025年8月15日

日本カトリック海外宣教者を支援する会 殿

## 会計報告書

申請者氏名 浦 善孝 (カトリック司祭・イエズス会)

Colégio de Santo Inácio de Loiola

申請者住所 Kasait, Ulmera, Bazartete, Liquiça, Timor-Leste

+670 7700 5866 / peterurasj8@gmail.com

1. 支援金申請日 : 2025年2月27日

2. 支援申請案件 : 東京から東ティモールへのコンテナ(20フィート)の運賃

3. 支援金入金日 : 2025年3月14日

4. 支援金受領額 : 1,052,660 円

5. 支出内訳 (添付の領収書を参照願います。)

a.	東京からのコンテナ発送運賃	785,043 円
b.	東ティモールでのコンテナ引き受け運賃	184,988 円 (US\$1,249.50)
	US\$1,249.50, \$1.00=148.05 円	= 184,988.475 円 8月13日銀行レート
	支出合計	970,031 円

(円ドル換算は、日本から東ティモールへのUSドル建て送金日に拠る。)

6. 決算 (精算)

援助受領額	1,052,660 円
支出額	970,031 円
残高 (貴会への返金額)	82,629 円

7. 海外宣教者を支援する会様への返金額 (残高) 82,629 円

(残高を送金するために、貴会の銀行口座をお知らせ願います。)

今回の東ティモール・聖イグナチオ学院の日本からのコンテナ輸送プロジェクトにあたり、海外宣教者を支援する会様より寛大なご援助を賜ることができましたこと、心から感謝しあれ申し上げます。ありがとうございます。貴会の益々のご繁栄をお祈りいたします。

推薦者 Fr. Calisto Seo Cola, S.J.

(聖イグナチオ学院 副校長 財務)

11/09/2025



支援申請者 Fr. 浦 善孝 S.J.

(聖イグナチオ学院 副校長 財務)

15-08-2025

浦 善孝

## 「関わり」

長崎純心聖母会 田 中 綾 子

現在、パラナ州の首都、クリチバに住んでいる。毎朝、ミサに行く、教会の前に、公園があり、そこは、いろんな所からの、バスの、乗り継ぎの場所にもなっている。そこに、年令から、無料で、バスを利用できることで、一人暮らしの人や、貧しい人が、この公園で、1日過ごしている。彼らと、関わりを始めて、5年になる。5,6人、ベンチに座って、おしゃべりしている女性たち。他は、ほとんど、一人、ポツンと、座り込んでいる。このような、関わりを知って、有志の方が、宣教に使ってくださいと、寄付を下さる事があり、それで、飴玉を買うよにしている。彼らにプレゼントする事を知っている、この女性たちは、「シスター、お祈りしましょう」との呼びかけに、祈ることを、覚えてくれたと、内心、喜んでいると、「そのあと、飴玉を下さるよね」と言われ、ああ、これが、目的かと、ガックリ。

一人、ポツンと、ベンチに、座り込んでいる人に、「こんにちは」と言いながら、隣に腰掛ける。どこから来たかを尋ねながら、会話を始める。ほとんど、自分の、これまでの、歩みを、話し始める。ある時、一人の、男性に、家から出て、何年、このような生活をしてると、たずねると、4年になるとのこと。彼は、家が、破産し、子供と、奥さんを残して、家を出ましたと。「奥さんと、子供は、きっと、あなたの帰るのを、待っていると思う。ただ、今飲んでいる、お酒



貧しい地区の子供たちに 教会で、聖歌の奉仕  
お菓子のプレゼント



貧しい地区で、昼食を提供をしているボランチアをやめないとね。」と話した。その後、彼の姿を見たことはない。一言の「おはよう」、「こんにちは」の呼びかけが、彼らを支える、一日のエネルギーになれたらと願いながら。

## チャドミッションについて

ショファイユの幼きイエズス修道会 近 藤 安紀子

いつも皆さまのお祈りとご支援に心から感謝しております。

今回はチャドでの活動を紹介させて頂きます。本会の事業所が二つ、ナザレ女子学生寮とレース・アンチ工幼稚園です。

ナザレ女子学生寮は今年35周年を迎えまし

た。昨年度の入寮生は 30 名、小学校 4 年生から高校 3 年生までを対象としています。女子学生寮の目的は教育（勉学）と宗教教育を行うことです。勉学の補習として、会が支援して先生に寮まで来てもらって、補習授業を行っています。宗教教育としては、毎朝 5 時起床、全員集まってお祈り。その後掃除、朝食、登校。毎晩 8 時半、全員でお祈り。カテドラルのカテケージス（2～3 年行った後に受洗）や木曜日夕方の若者のミサと主日のミサには必ず参加することになっています。土地の親御さん、特に父親が教育費を出して自分の娘に教育を受けさせようという意識が随分高くなってきてていると思います。

レーヌ・アンチエ幼稚園は青空教室から始めて、今年で 40 年になりました。おととしは 103 人の子どもが、昨年度は 89 人の子どもが園に通いました。子どもの内訳は 3 歳児が 30



ナザレト寮 寮生全員でロザリオの祈り



レーヌアンチエ幼稚園

人、4 歳児が 43 人、5 歳児が 16 人、男子 42 人、女子 47 人でした。チャド人の主任男性教師 1 人と 2 人の女性教師で運営されています。一番感心することは言語が 3 つに及ぶことです。男性教師がフランス語で話したことを、部族の言葉であるカバライ語とガンバイ語に女性教師が通訳し、その上アラビア語でも言います。通園している 5 歳の女の子達は色塗りが大好き。家や身の周りに鉛筆まして色鉛筆はありませんから、集中して丁寧に塗り上げている姿には、このような環境を整える教育のすばらしさを実感させてもらいました。私はチャドの子ども達から多くのことを学んでいます。

また、小神学校と教区立の中学校で音楽を教えているシスターもいます。ライ教区の前司教、スペイン人のミゲル司教様から頼まれて刑務所の訪問も始めました。2020 年にチャド人のニコラ司教様になって、クリスマスとご復活のごミサの後にお祝いの食事を囚人達に作るようになりました。100 人前後だった囚人も今では 200 人以上。狭い刑務所内で消毒薬、洗剤、石鹼がないので色々な病気になります。今年で 8 年目ですが、刑務所と学校で出会ったすべての人が、市場で出会うと声をかけてくれます。日本との違いは、差別なく、刑務所にいたからとか誰も卑屈な思いをすることなく、喜んで声をかけ合えるところで、それは素晴らしいと思います。

以上、現在の私たちの活動について報告させて頂きました。

皆様の上にも、主のご降誕の豊かな恵みが注がれますようお祈り申し上げます。

## 工事遅延のご報告

マリアの宣教者フランシスコ修道会 黒 田 小夜子

今年の日本は猛暑と聞きましたが、皆様は残暑のこの頃、如何お過ごしでしょうか？

私は疲れていますが、年相応です。

「Petite Helen 学校にソーラーエネルギー装置設定」のために、援助金を頂いておりますが、工事はまだ開始することが出来ずにいますので報告いたします。

理由は、Petite Helen 学校の増築費を、在ブルキナファソの日本大使館に申請していますが、2025 年度分前期に間に合わず、後期判定となりましたで、10 月末には決定がされる予定です。この増築が完成後屋根に設定することになりますので、2026 年後半設置工事をする予定です。

支援する会の皆様にが説明ご了解をお願いいたしました。

## 聖靈に導かれた修練院での生活

神言修道会 司祭 傍 島 義 雄

私は昨年 10 月に神言修練院 (Divine Word Novitiate) に移り住みました。それ以前は、近くの小教区で 6 か月間生活しており、そのうち約 4 か月間は独り暮らしでした。そのため、現在の共同生活に感謝しています。今は、さまざまな国から来た神言会 (SVD) の兄弟たちと毎日一緒に食事をし、祈る時間があります。

私は日本出身で、約 10 年前に日本で修練期を過ごしました。その修練院は、私の出身教会 (岐阜県の多治見教会) と同じ敷地内にありました。その時の修練士は私を含めて 3 人だけでした。日本での修練院の生活と、現在ザンビアの修練院で送っている生活の違いに、時々驚かされます。

たとえば、私が修練士だった頃は、歌の練習やスポーツを一緒にすることはなく、ザンビアの修練院に比べて作業もあまりありませんでした。記憶によれば、当時の修練長は作業についてほとんど指示を出さず、修練士たちは自分たちでやるべき仕事を見つけて行う必要がありました。私はおもに小さな畑を耕し、さまざまな野菜を育て、他の 2 人の修練士たちは敷地内の草刈りをしていました。日本の修練院ではコンピューターを使うことがほぼ無く、テレビは月に一度だけ観ることができました。食料品や日用品の買い出しのため、また散歩のために外出することができました。一方、現在のザンビアの修練院では修練士たちのためのコンピューター室があり、オンライン授業があり、電気が送られていれば彼らは毎日夕食後の一定時間にテレビを観ることができます。ここでの修練士たちは自由に外出することが許されています。こうした違いのために、私は時々、もう一度別の修練期を経験しているように感じます。異なる環境での修練院生活を味わわせるために、聖靈が私をここに遣わしたのかもしれません。

実際のところ、私がこの修練院に送られた理由の一つは、英語力の向上です。ここに来た当初と比べれば私の英語は少しばかり上達したと思いますが、今も難しさを感じています。私た

ちは様々な国から集まって来ており、お互いの英語の発音や表現が分かりづらいこともよくあります。それでも、共同体のメンバーの親切と支え、そして聖霊の導きのおかげで、なんとか共同生活を送ることができます。聖霊は、出身も性格も異なる私たちを一つに結び付けてくれます。

私は修練院に住んでいながら、小教区やその巡回教会でミサを捧げる機会も多くあります。その経験を修練士たちと分かち合えることにも感謝しています。修練院と小教区の両方でミサを捧げる機会があるというのは、私にとって恵みです。今の状況がどれくらい続くのか、またこの先どこに派遣されるのかは分かりませんが、聖霊の導きを信頼し、修練士たちと共に成長していきたいと思います。

◆ ブラジル ◆ クリチバ ◆

## PANIB (PASTORAL-NIPO-BRASILEIRA) 通信

### 日伯司牧協会

佐々木治夫神父は UEL より名誉博士号を授与されました。

この栄誉は CCSA 保険センター (CCS) の要請に基づき、大学の最高機関である大学評議会によって、病理学・臨床・毒物研究分析学科を通じて承認されました。授賞式は 5 月 16 日午後 7 時、応用社会学センター (CESA) の講堂で行われました。佐々木神父の代理として、当初から彼の研究を支援してきた皮膚科医のマウロ・フィルゲイロアス・メンデス氏が出席しました。93 歳の佐々木治夫神父はクリチバでひつ

そりと暮らしていますが、健康状態は良好で、特にご自分が始めた研究を継続できる見通しがついたことへの表彰を喜んでいます。佐々木神父の業績は Folha 紙で報道されました。また、彼は 2023 年 6 月に議会でパラナ州名誉市民の称号を授与されました。

(オリヅンテ誌 2025 年 9 月号より)

◆ ポリビア ◆

◆ サンタ・クルス ◆

## きずなを手に喜び

### イエスのカリタス修道女会



シスター立石順子とシスター松下春江

◆ 日本 ◆

◆ 福岡 久留米 ◆

## 教会の手伝いと読書推進活動

### ショファイユの幼きイエス修道会 橋 本 進 子

私は 2025 年 3 月 11 日にカンボジアに「さようなら」を致しました。2004 年 3 月からカンボジア共同体に住まいをおいて 19 年間、そして 2022 年の 5 月からシェムリアップ共同体で 2 年間、合わせてカンボジアで 21 年間教会

の手伝いと青少年対象に読書推進活動に専念いたしました。この間「きずな」をはじめ日本の皆様とカンボジアの司教さま、司祭方そして青年男女の助けのおかげで喜びのうちに楽しく過ごすことが出来、幸いでした。「きずな」の支えはどんなに心づよかったです、本当にありがとうございました。

日本 ◆東京◆

紹

メイカル・ミッション・シスターズ 延江由美子  
当会運営委員

これまで度々インド北東部についての拙文を載せていただいている Sr. 延江由美子です。ここ数年日本にいる理由の一つが母を在宅介護することなのですが、去年から将来のミッション



ラジオ出演した際、東京外語大の3年生と一緒に



東京国分寺にあるログハウスでのお話を

のために鍼灸の専門学校に通い始めました。カリキュラムが大変きつく休みもほとんどないので、2年半後に無事卒業し国家試験に受かるまでは2ヶ月という短い期間でさえもインドに戻ることは叶いません。それでも時間と体力の許す限り、機会を見つけてはインド北東部についてのお話を開催しています。

インド北東部と一口に言ってもその多様性と豊かさは計り知れず、話し出すとキリがなくなってしまいます。それでこの頃はナガの人々に焦点を絞るようにしました。というのは彼らが住んでいるナガランド州とマニプール州はかの悪名高いインパール作戦で日本陸軍が進撃した地でもあり、また今日に至るまでナガの人々が辿らざるを得えなかった独立闘争は、世界各地で今も絶え間なく繰り返される悲惨な出来事と重なるからです。

参加してくださる方々はいつもたいへん熱心に耳を傾けてくださいます。今年は戦後80年。メディアでもさまざまな特集報道がありますが、インパール作戦を知らない若者が多いことに今更ながら驚きます。かくいう私も、はるか昔の学生時代に太平洋戦争についてどれほど知っていたでしょうか。ナガランドでは今でも「日本戦争」として語り継がれていて、マニプール州出身の18歳になる志願者の家庭訪問をした時には「向こうに日本兵が隠れていた大きな岩があります」と教えてくれました。

たとえ現地に行けなくてもミッションナリーであることに変わりありません。いつも境界にあってあちらとこちらをつなげる役目をなんらかの形で担っていけるお恵みを願い祈りつつ、学業と介護に励む日々を過ごしています。

## 多くの支援に感謝

## ベリス・メルセス宣教修道女会 真神シゲ

チアパス、グアテマラと旅をして、今は日本  
国神奈川県茅ヶ崎市からメールしています。去  
年 2024 年 8 月に家族訪問で日本に着いて、そ  
のまま日本に居着いています。チアパス滞在中  
は、藁草畳作り藁草作り、図書室作りにご援助  
いただきました。また、クルマの購入時にも、  
お手伝いをいただき本当に嬉しいでした♪村の  
方々と大喜びをした事を、懐かしく思い出して

◇明日何が起きるかわからない混迷を極める世界の各地でお働きの皆様そして、事務局の皆様のためにお祈りしております。

(兵庫県 森口 耀子)

◆きずなを読んでいろいろ考えています。恵みを頂いています。有難うございます。

(愛知県 赤澤 進)

◇いつも「きずな」をありがとうございます。  
これからもお体に気をつけてキリストの愛と平和を一人でも多くの方にもたらし続けて行かれますように。聖霊が皆様の活動に恵みを与え助けてくださいますように。

(栃木県 那須トラピスト修道院)

◆お体をお大事にご活躍下さいませ。

(東京都 篠岡 淑子)

◆所属している小教区で東ティモール「聖イグナチオ学院」の教育支援をしています。これか

います。グアテマラでは、ご支援のお陰様で、婦人教室継続ができた事を本当にほんとうに感謝して、思い出しています。

此処、茅ヶ崎では、横浜教区のフィリピングループ、ラテンアメリカグループの、司牧活動にボランティアとして、参加しています。今現在は、この暑さにやられて、グッタリしていますが、もう少し暑さが和らぎましたら、フィリピン、ラテンアメリカグループの責任者、ジョイ・ガルシアと海外宣教会を訪問いたしたいと思つております。よろしくお願ひいたします。

皆様、暑さに負ける事なく夏を乗り切ってください。お祈りでお手伝いさせていただきます。

らも当会への祈りとともに支援させて頂きます。

(東京都 服部 栄子)

◆いつもオリゾンテと海外宣教者を支援する会  
のお知らせをありがとうございます。

(宮城県 長谷川 昌子)

◆皆様の安全とご活躍をお祈りしております。

(東京都 匿名希望)

◆お元気で御活躍下さい。お祈りしています。

(神奈川県 松岡 詔子)

◇少しですみませんが、送らせて頂きます。私は元気で感謝の日々です。

(千葉県 萩原 光代)

◆会報ありがとうございます。感謝とともに。

(千葉県 平松 裕子)

◇遠い国でのお働きいつも勇気をいただいております。(埼玉県 長山 好子)

# Life goes on

海外宣教者を支援する会 会長 フランシスコ会 村 上 芳 隆

2025年は、聖フランシスコが創った「兄弟なる太陽の賛歌（ラウダト・シ）」の800周年にあたります。10月に東京で「太陽の賛歌シンポジウム」が開かれ、あらためてこの賛歌を詠み味わう機会を得ました。

この賛歌を創った時、聖フランシスコはほとんど失明しており、身体的には最悪で、ほぼ寝たきりの状態でした。そんな時期、彼の生き方と靈性を統合する祈りが産まれました。兄弟姉妹である被造物を通して、被造物と共に、被造物として神をたたえる壮大で美しい祈りです。しかも聖フランシスコは、福音宣教として人々に歌って聴かせるために、兄弟たちを派遣しています。

この賛歌は次のように始まります。

「いと高き、全能の善き主よ、  
賛美と栄光と栄誉とすべての祝福は、  
ただあなたのもの。  
いと高き方よ、それらはただ  
あなたにのみふさわしく  
人は誰もふさわしくあなたを語ることはできません。

賛美されますように、わたしの主よ、  
あなたがお造りになったあらゆるもの  
特に、わたしの主君、兄弟である太陽の故に、  
この兄弟は真昼の光、この[兄弟]によって、  
あなたはわたしどもを照らしてくださいます。  
この[兄弟]は美しく、大きな輝きをもって光り輝き、あなたのお姿を呼びています、いと高き方よ。…………」

そして、「月、星、風、大気、雲、晴天、季節、水、火、大地によって」と続きます。

しかしその後は、「人を赦し、病と難に耐える者たちによって」と続きます。これは、当時アシジの司教と市長との和解を促すために加えられた部分です。

賛歌の結びには、次のような言葉が置かれています。

「賛美されますように、わたしの主よ、  
姉妹であるわたしたちの肉体の死によって、  
生きとし生ける者は誰ひとりとして、  
この姉妹から逃れることはできません。  
死に至る罪のうちに死ぬ者は何と不幸なことでしょう。  
あなたのいとも聖なるみ旨のうちに自らを見いだす者は何と幸いなことでしょう、  
第二の死はこの人々に  
何の危害を加えることができません。」

賛美し、ほめたたえよ、わたしの主を、  
そして感謝せよ、  
謙遜の限りを尽くして主に仕えよ。」

わたしたちにとって難しい課題である「ゆるし・和解・平和」のテーマが賛歌に加えられ、さらに聖フランシスコは、死さえも神を賛美することができることを証ししています。これは「終活の靈性」とも言えるでしょう。

11月の初め、89歳になる福岡の姉を訪ねました。今、生きている唯一の肉親です。夫と長男はすでに召され、娘たち（姪たち）は嫁いでおり、姉は独り暮らしをしています。2024年8月末に胃がんの手術を受け、退院後はリハビリのため3か月ほど別の病院に入院していました。11月、家に戻って一年になりました。リハビリのおかげで歩けるようになりましたが、以前のように外出することは難しいです。わたしは毎月一度、長崎から福岡へお見舞いに行っています。

この一年で、姉はずいぶん弱くなりました。11月2日に会ったとき、「いろんなことを忘れてしまい、毎日の生活が辛くなった」と初めて言いました。そういう思いがあるためか、あまり元気がなく、「施設に入りたい」と言い出しました。それまでは、「施設は嫌だ」でした。それで、姪たちには手続きを始めるよう助言しました。

姉は今、覚悟を決め人生の総括を迎える日々を静かに過ごしています。気持ちは揺れ動くかもしれません。わたしは長崎に戻る列車の中で、「兄弟なる太陽の賛歌」の結びの部分を思い出しました。それを唱えるだけでなく、ほんとうの祈りとして捧げることができれば、何と幸いなことでしょう。

連載

## 「海外宣教」

### 奇跡の主：ペルーから日本へ

マリオ　山野内 倫 昭　さいたま教区司教

2005年10月15日、聖座はリマ教区（ペルー）と協議の上、「奇跡の主（セニョール・デ・ロス・ミラグロス）」をペルー在住および移住者を含む、全ペルー人の保護の聖人と認定することを満場一致で決定しました。というのも、彼らが他国へ移住し始めた際、世界中の多くの都市で、とりわけ10月には、同胞たちが伝統的な紫色の衣装を身にまとい、信心を続けてきたからです。世界中でもっと多くの信者を集める行事の一つとして知られる「奇跡の主」の行列は、300年以上にわたり、世界各地の260都市を巡り、何千人のカトリック信者を集めます。こうして現在では、数多くの主要都市でこの祝祭が行われ、ここ日本においても、日本各地に住むペルー人たちが結集しています。ペルー人だけでなく、他の言語を話す兄弟姉妹も集います。ペルー人たちはますます小教区にかかり、日本の教会生活において重要な役割を担うようになってきています。

#### 日本での祝祭の起こり

今日、日本には約5万人のペルー人が住んでいるため、ペルーでもっとも熱狂的な宗教と文化の表現の一つである「奇跡の主」の祭りと行列が発展することは必然でした。通信社の記録によると、最初の祭りは1992年10月18日に住吉カトリック教会（神戸市）で行われ、関東では、大和教会（神奈川）で1995年に始まり、他の都市にも広がりました。ペルーから取り寄せたご像を重いれん台に乗せて運びます。そのとき、あらゆる時代の人々が背負ってきた、非常に重い傷と十字架を、主イエスが背負っていることが感じられるのです。

#### わたしが奇跡の主を知ったのは…

1999年10月、弟のアンヘル（公司）神父（サレジオ修道会）が、掛川市（静岡）で行われるミサと行列に参加するよう依頼したのが最初です。教会ではなく、広い場所を借りて行われました。ゆるしの秘跡を待つ人々の果てしない列ができ、30分遅れでミサが始まりました。わたしは大分生まれですが、子どものときアルゼンチンに渡ったため、当時はまだよく日本語を話せませんでした。そうしたとき、何よりも印象的だったのは、日本において、わたしと同じ、

東洋人の顔立ちでありながらスペイン語を話し、日本語はほとんど話せない人々がこれほどたくさんいることでした。まるで自分の世界に戻った感覚でした。この人たちのためにも働くかなといけないと、強く思いました。

#### 現在では

現在日本で、「奇跡の主」がどの教会で祝われているかについて、わたしは全国的な情報をもつてはいませんが、さいたま教区では、多くの教会でこの祝祭を祝っていて、小山教会（栃木）は、今年25周年を迎えました。わたし自身がこの祝祭を祝い、また、伊勢崎、太田（以上群馬）、行田、深谷、本庄、所沢（以上埼玉）、小山、足利（栃木）、常総（茨城）各教会などのため、スペイン語を話す司祭たちに司式を依頼します。各教会で信者たちは、連帯してれん台を担いで行列し、最後にマリネラ（ペルーの伝統舞踊）を踊ります。

**奇跡：**この祭りは、すべての人に開かれた共同体の祭りへと変化しつつあります。

126年前からペルーに移住していった日本人たちによって、ペルーは、日本からの移民と日系人の数が2番目に多い国となりました。多くの人が政治、経済、科学など、さまざまな分野で活躍しています。そうしたペルーで生きる日系人と、日本で暮らすペルーアンとの連帯のうちに、日本に生きるわたしたちが自分の最善を尽くしましょう。とりわけ子どもたちを教育し、あらゆる移住者を受け入れる開放的な模範となる日本を築くため、その原動力となる人材を育てなければなりません。

奇跡の主、わたしたちに奇跡を与え、皆が、キリスト・イエスにおける兄弟姉妹となり、新しい人類家族を築く人となれますように。

\*\*\*\*\*

## お知らせ

### ★宣教者のお話を聞く会★



★2026年2月14日土曜日

★13時半～15時まで

★話し手 中村 葉子シスター（聖心侍女修道会）東ティモール宣教中

★港区六本木4-2-39 フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院の1Fホールにて

現在の東ティモールについてお話をうかがいます、皆様のご参加お待ちしております

日本とは違うお話を聞けると思います、ご友人と共にお越しください。

\*\*\*\*\*

私達の神は どんな時にも私達への愛を送り

立ち返るよう求めておられます

クリスマスにあたり 思いを新たにして共に祈りましょう

## 新しい支援者

団体 1件

聖トマス寮（東京都新宿区）

### 事務局より

- ◎本年は雨の災害が多く、来年こそは災害の無い年になりますように。
- ◎今年もクリスマスがやって来ます、皆様におかれましてはクリスマスご寄付を宜しくお願ひ致します。
- ◎海外宣教者の方で「きずな」の郵便を受け取れずメール受信可能な方はメールアドレスを会の事務局あてにお知らせください。アフリカ、南米など。
- ◎ご家庭で眠っています、書き損じのはがきや未使用の切手などをお送りください、通信費として大切に使用させていただきます。
- ◎事務局は 12月 24 日～ 2026 年 1 月 5 日までお休み致します。
- ◎海外、国内からの原稿を募集致します。下記にメールでお送りください。

### 発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112

日本カトリック海外宣教者を支援する会

・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会